5 年 次 科 目

目 次

専門教育科目

01_実務実習Ⅰ	13_卒業研究（生薬学）
02_実務実習Ⅱ	14_卒業研究（和漢薬物学）
03_卒業研究（薬品化学）	15_卒業研究（免疫薬品学）
04_卒業研究（分子生物学）	16_卒業研究（分析化学）
05_卒業研究（薬物治療学）	17_卒業研究（薬物解析学）
06_卒業研究（地域医療薬学）	18_卒業研究（薬学教育推進）
07_卒業研究（衛生化学）	19_ポスト教育
08_卒業研究（薬品作用学）	20_診療科別治療論
09_卒業研究（薬剤設計学）	21_薬局薬学実習
10_卒業研究（処方解析学）	22_病院薬学実習
11_卒業研究（臨床薬剤学）	23_伝統医療薬学実習
12_卒業研究（天然物化学）	24_海外医療研修
	25_学内研修

講義コード	2750100
講義名	実務実習I 29-27
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	10
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目 (4年～5年)
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～5年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 窪田 敏夫	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
指定なし	第一薬科大学 全教員	指定なし

求められる基本的な資質

★医療施設における実務実習★

薬剤師としての心構え

患者・生活者本位の視点

コミュニケーション能力

チーム医療への参画

薬物治療における実践的能力

地域の保健・医療における実践的能力

自己研鑽

一般目標(GIO)

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

F (1) 薬学臨床の基礎：医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

F (2) 処方せんに基づく調剤：処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

F (3) 薬物療法の実践：患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

F (4) チーム医療への参画：チーム医療への参画：医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

F (5) 地域の保健・医療・福祉への参画：地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

A(1) 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。

A(2) 倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。

A(3) 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。

A(4) 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。

B(4) 地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。

到達目標(SBO)

F薬学臨床

(1) 薬学臨床の基礎

【②臨床における心構え】

4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)

5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)

6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)

7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)

【③臨床実習の基礎】

13. 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。

14. 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。

15. 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。

(2) 処方せんに基づく調剤

【①法令・規則等の理解と遵守】

2. 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)

3. 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)

4. 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。

【②処方せんと疑義照会】

7. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)

9. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)

10. 薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる。(知識・技能)

11. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)

【③処方せんに基づく医薬品の調製】

9. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)

10. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)

11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)

12. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)

13. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)

19. 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)

【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】

9. 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)

10. 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)

11. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)

12. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)

15. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)

【⑤医薬品の供給と管理】

9. 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)

10. 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)

11. 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。

12. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒せい剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)

【⑥安全管理】

8. 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)

9. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。

10. 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)

11. 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)

(3) 薬物療法の実践

【①患者情報の把握】

5. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)

7. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)

【②医薬品情報の収集と活用】〔E3(1)参照〕

2. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)

3. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)

5. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)

6. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)

【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】

12. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)
13. 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。
14. 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)

【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】

4. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・技能)
11. 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)
12. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)
13. 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)

(4) チーム医療への参画

【①医療機関におけるチーム医療】

4. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)

【②地域におけるチーム医療】

3. 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)
4. 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

【①在宅(訪問)医療・介護への参画】

4. 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)
5. 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)
6. 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)

【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】

3. 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)
4. 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)

【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】〔E2(9)参照〕

5. 薬局製剤(漢方製剤含む)、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)
6. 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)
7. 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、一般用医薬品・検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)

8. 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)
9. 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)

【④災害時医療と薬剤師】

2. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。

3. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）

A 基本事項

(1) 薬剤師の使命

【①医療人として】

1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。（態度）
2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。（態度）
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。（態度）
4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。（知識・態度）
5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。（知識・態度）
6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。（知識・態度）
7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。（知識・態度）

【②薬剤師が果たすべき役割】

1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。（態度）
2. 薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。
3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。
4. 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。
5. 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。
6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。
7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。
8. 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）

【③患者安全と薬害の防止】

1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）
2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。
3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。
4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。
5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）
6. 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。
7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）

【④薬学の歴史と未来】

1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。
2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。
3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。
4. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）

(2) 薬剤師に求められる倫理観

【①生命倫理】

1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)
2. 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。
3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)
4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。

【②医療倫理】

1. 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。
2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。
3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。

【③患者の権利】

1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)
2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。
3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。
4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)

【④研究倫理】

1. 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。
2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)

(4) 多職種連携協働とチーム医療

1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。
2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。
3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。
4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)
5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)

B 薬学と社会

(4) 地域における薬局と薬剤師

【①地域における薬局の役割】

1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。
2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。
3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。
4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。
5. 災害時の薬局の役割について説明できる。
6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。

【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

1. 地域包括ケアの理念について説明できる。
2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。

3. 学校薬剤師の役割について説明できる。
4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。
5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度）

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略	コアカリSBO番号
第1回		調剤（直前学習）	計量調剤の実習①	実習	F(2) ②5, ③3
第2回		調剤（直前学習）	計量調剤の実習②	実習	F(2) ②5, ③3
第3回		調剤（直前学習）	計量調剤の実習③	実習	F(2) ②5, ③3
第4回		調剤（直前学習）	計量調剤の実習④	実習	F(2) ②5, ③3
第5回	九州大学大学院 三上聡美	服薬指導（直前学習）	患者とのコミュニケーション	実習	A(3)① 4-9②1, 2
第6回		服薬指導（直前学習）	患者対応	実習	F(1)②2,3, (2)④1,2,3,8
第7回		服薬指導（直前学習）	患者対応	実習	F(1)②2,3, (2)④1,2,3,8
第8回		服薬指導（直前学習）	患者対応	実習	F(1)②2,3, (2)④1,2,3,8
第9回		服薬指導（直前学習）	患者対応	実習	F(1)②2,3, (2)④1,2,3,8
第10回		薬局実務実習 11週間			

授業概要

・直前学習

実習を開始するにあたって、学内において基本的な調剤業務である計量調剤の為の技能・態度の再確認および服薬指導に向けて、薬物療法における個々の患者の要望に対する薬剤師の対応方法について症例を用いて討論する。

・薬局での実務実習

4年次までの薬学に関する知識を基に、実際の医療現場で保険薬局業務体験を実践し、参加型の実習をおこなうことにより、実践的な薬剤師に必要な知識、体動、技能などを習得する。具体的には処方せん受付、処方入力、調剤、監査、服薬指導、薬歴記録などの薬局店舗業務の体験を通じて薬局薬剤師の業務を理解し、医療人としての薬剤師の位置づけ、役割、責任などの重要性を理解し、薬剤師業務を習得する。

授業形式
<p>薬局での実務実習、および学内における直前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設における実習内容、スケジュールはW E B実習書における実務実習実施計画書を確認すること
評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・直前学習 <p>実務実習Iの成績評価の対象としないが、技能、態度（ルーブリック評価）を評価し、必要に応じてフィードバックする。</p> <p>*原則として欠席・遅刻は認めない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬局での実務実習 <p>指導薬剤師による評価 50%</p> <p>実習生担当教員による評価50%（態度10%、実務実習書40%）</p> <p>*原則として欠席・遅刻は認めない。</p> <p>（評価項目、到達目標等はルーブリックを参照すること）</p>
教科書（ISBN番号）
今日の治療薬2020または2021 浦部晶夫他 編集（南江堂）
参考書
<p>治療薬マニュアル 2020または2021 高久史磨他 監修 北原光夫他 編集（医学書院）</p> <p>調剤指針 第十三改訂 日本薬剤師会編 （薬事日報社）</p>
オフィスアワー(授業相談)
実習生担当教員に連絡をし、不在の時は実務実習総括部長（窪田）へ連絡。
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・相談事はためらわずに実習生担当教員、実務実習総括部長または教員にする事。 ・W E B実習書を用いた日誌・1週間の振り返り、到達度評価によって、指導薬剤師が実習生の到達状況を把握します。毎日、W E B実習書への記載を忘れずに行ってください。
備考
<p>基本的に、第一期あるいは第二期で薬局実務実習を実施</p> <p>第一期：2021年2月22日～2021年5月9日</p> <p>第二期：2021年5月24日～2021年8月8日</p> <p>第三期：2021年8月23日～2021年11月7日</p> <p>第四期：2021年11月22日～2022年2月13日</p>
授業用E-mail
t-kubota@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2750200
講義名	実務実習II 29-27
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	10
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目 (5年)
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 5年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 窪田 敏夫	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
指定なし	地域医療薬学センター 所属教員	指定なし
指定なし	薬学教育支援センター 所属教員	指定なし

求められる基本的な資質

★医療施設における実務実習★

薬剤師としての心構え

患者・生活者本位の視点

コミュニケーション能力

チーム医療への参画

薬物治療における実践的能力

地域の保健・医療における実践的能力

自己研鑽

一般目標(GIO)

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

F (1) 薬学臨床の基礎：医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

F (2) 処方せんに基づく調剤：処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、

医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

F(3) 薬物療法の実践：患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

F(4) チーム医療への参画：チーム医療への参画：医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

F(5) 地域の保健・医療・福祉への参画：地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

A(1) 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。

A(2) 倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。

A(3) 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。

A(4) 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。

B(4) 地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。

到達目標(SBO)

F薬学臨床

(1) 薬学臨床の基礎

【②臨床における心構え】

5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)

6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)

7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)

【③臨床実習の基礎】

6. 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。

7. 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。

8. 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)

9. 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。

10. 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。

11. 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。

12. 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。

(2) 処方せんに基づく調剤

【②処方せんと疑義照会】

7. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)

8. 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認

できる。(知識・技能)

9. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)

10. 薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる。(知識・技能)

11. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)

【③処方せんに基づく医薬品の調製】

11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)

12. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)

13. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)

14. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)

15. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。

16. 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)

17. 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)

18. 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)

19. 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)

【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】

11. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)

12. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)

13. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)

14. お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)

15. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)

【⑤医薬品の供給と管理】

12. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒せい剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)

13. 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)

【⑥安全管理】

8. 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)

9. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。

10. 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)

11. 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)

12. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)

13. 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)

14. 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)

(3) 薬物療法の実践

【①患者情報の把握】

5. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)

6. 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬

等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)

7. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)

【②医薬品情報の収集と活用】〔E 3 (1) 参照〕

2. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)

3. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)

4. 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)

5. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)

6. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)

【③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】

7. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。

8. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。

9. 患者の状態 (疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等) や薬剤の特徴 (作用機序や製剤的性質等) に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)

10. 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)

11. 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)

12. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)

13. 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。

14. 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)

【④処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価)】

4. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・技能)

5. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。(知識・態度)

6. 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)

7. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。

8. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。

9. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。

10. 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)

11. 報告に必要な要素 (5W1H) に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)

12. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で適切に記録する。(知識・技能)

13. 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)

(4) チーム医療への参画〔A (4) 参照〕

【①医療機関におけるチーム医療】

4. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)

5. 医師・看護師等の他職種と患者の状態 (病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化 (治療効果、副作用、心理状態、QOL 等) の情報を共有する。(知識・態

度)

6. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）
7. 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）
8. 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）
9. 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）

【④災害時医療と薬剤師】

2. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。
3. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）

A 基本事項

(1) 薬剤師の使命

【①医療人として】

1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。（態度）
2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。（態度）
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。（態度）
4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。（知識・態度）
5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。（知識・態度）
6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。（知識・態度）
7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。（知識・態度）

【②薬剤師が果たすべき役割】

1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。（態度）
2. 薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。
3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。
4. 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。
5. 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。
6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。
7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。
8. 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）

【③患者安全と薬害の防止】

1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）
2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。
3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。
4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列举し、その原因と防止策を説明できる。

5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)

6. 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。

7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)

【④薬学の歴史と未来】

1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。

2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。

3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。

4. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)

(2) 薬剤師に求められる倫理観

【①生命倫理】

1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)

2. 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。

3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)

4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。

【②医療倫理】

1. 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。

2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。

3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。

【③患者の権利】

1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)

2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。

3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。

4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。

(知識・技能・態度)

【④研究倫理】

1. 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。

2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。

3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)

(4) 多職種連携協働とチーム医療

1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。

2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。

3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。

4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)

5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)

B 薬学と社会

(4) 地域における薬局と薬剤師

【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

1. 地域包括ケアの理念について説明できる。
4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。
5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度）

授業計画表

回	項目
第1回	病院実務実習 11週間

授業概要

病院実務実習では、4年次までに身につけて薬学に関する知識を基に、実際の医療の現場で病院薬剤師の業務体験、実践し、参加型の実習を行うことにより、実践的な薬剤師に必要な知識、態度、技能などを修得する。また、院内における医療チームの構成や各構成員の役割を理解し、医療チームにおける薬剤師の位置づけ、役割を理解する。さらに医療チームの各構成員と連携、協力し患者のQOL（生活の質）向上を目指し、実践することにより、病院薬剤師の業務を修得する。

授業形式

病院での実務実習

- ・各施設における実習内容、スケジュールはWEB実習書における実務実習実施計画書を確認すること

評価方法

指導薬剤師による評価 50%

実習生担当教員による評価 50% (態度10%、実務実習書40%)

* 原則として欠席・遅刻は認めない。

(評価項目、到達目標等はループブックを参照すること)

教科書 (ISBN番号)

今日の治療薬2020または2021 浦部晶夫他 編集 (南江堂)

参考書

治療薬マニュアル2020または2021 高久史磨他 監修 北原光夫他 編集 (医学書院)

調剤指針 第十三改訂 日本薬剤師会編 (薬事日報社)

オフィスアワー(授業相談)

実習生担当教員に連絡をし、不在の時は実務実習総括部長 (窪田) へ連絡。

学生へのメッセージ

- ・相談事はためらわずに実習生担当教員、実務実習総括部長または教員にする事。
- ・WEB実習書を用いた日誌・1週間の振り返り、到達度評価によって、指導薬剤師が実習生の到達状況を把握します。毎日、WEB実習書への記載を忘れずに行ってください。

備考

基本的に、第二あるいは第三期で病院実務実習を実施

第二期：2021年5月24日～2021年8月8日

第三期：2021年8月23日～2021年11月7日

第四期：2021年11月22日～2022年2月13日

授業用E-mail

t-kubota@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760101
講義名	卒業研究（薬品化学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 門口 泰也	医薬品化学・物性学講座 薬品化学分野（漢）
准教授	横山 さゆり	医薬品化学・物性学講座 薬品化学分野（漢）

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2

3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3

4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1

2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2

3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1

2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2

3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3

4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4

5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5

6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。	分野配属学生への研究指導

回		(7)	
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

医薬品開発に必須の有機反応の開発を研究テーマとする。遷移金属触媒に隠された能力を発掘・駆使することで、工業的な実用化を指向した高効率で安全性の高い反応の開発を目指す。特に窒素やケイ素、硫黄などのヘテロ原子を含む化合物と多置換型芳香族化合物の合成に注力する。実験ノートの書き方、実験操作方法、論文の読み方、研究の進め方、学会等でのプレゼン方法について懇切丁寧に指導する。高度な文章作成能力は指導的な薬剤師には必須である。日常の書類作成はもとより卒業論文作成を通して徹底的に鍛える。

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。
尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。
講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

水曜日 午後1時～5時

不在の場合も含めメール (monguchi@daiichi-cps.ac.jp)でも対応します。

学生へのメッセージ

宇宙は物質から成り立っています。したがって、物質を扱う「化学」には研究テーマが満ち溢れています。子供のとき、ものの色や形が変わったりするのを見るのは楽しくなかったですか？おもちゃを設計して組み立てるのはどうでしたか？有機化学というと難しく聞こえるかもしれませんが、実際のところは子供の頃の遊び心をそのままに、楽しんでいます。分子レベルで考えると確かに目に見えない小さいものを相手にしていて捕らえどころがないと感じられるかもしれませんが、要は有用な物質の設計図、あるいは別の言葉で言うと美味しい料理のレシピを作ってやろうという感覚です。まだまだ未知の部分が「化学」にはあります。教科書が書き換えられるような発見だって夢ではありません。福岡市南区玉川町から世界と一緒に目指しませんか！

授業用E-mail

monguchi@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

yonekura@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760114
講義名	卒業研究（分子生物学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 炬口 眞理子	生命薬学講座 分子生物学分野
講師	岡崎 裕之	生命薬学講座 分子生物学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2

3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3

4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1

2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2

3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1

2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2

3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3

4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4

5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5

6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略	コアカリSBO番号
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 A(2)④3
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(1)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(2)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(3)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(4)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(5)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3

回	ミナー	す。(6)	指導	G(3)1-3 A(2)④3
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(7)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(8)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(9)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(10)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(11)	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導	G(1)1-4 G(2)1-3 G(3)1-3 A(2)④3
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導	A(2)④3 G(3)1-3

授業概要

卒業研究の一環として、各自のテーマの背景を理解する。その上で、研究実験・調査研究を行い、自らの研究内容について、分野内、学会において、発表・討論を行う。研究調査活動を通して、問題点の発見、解決・対策法、今後の発展についての提案を可能にすることを目的として行う。研究テーマとしては、以下を設定している。

「実験研究コース」

- ・ 遺伝子発現制御を基盤とした創薬研究
- ・ バイオマーカーに関する研究

「調査研究コース」

- ・ 遺伝子発現制御と疾患に関する調査研究
- ・ 疾患・治療に関する調査研究

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は

卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などを評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。
尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。
講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

月曜日～金曜日 午後1時～午後5時（不在の場合を含めメールでも対応します。）

学生へのメッセージ

これまでに学修した内容を整理し、研究室における活動、発表・討論を通して、相手に伝えることの重要性を習得し、医療人として活躍することを意識した活動を期待します。

授業用E-mail

m-takenokuchi@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

h-okazaki@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760111
講義名	卒業研究（薬物治療学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小山 進	生命薬学講座 薬物治療学分野（漢） 医師経験あり
准教授	安川 圭司	生命薬学講座 薬物治療学分野
講師	山脇 洋輔	生命薬学講座 薬物治療学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導

第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (7)	分野配属学生への研究指導
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

授業用E-mail

s-koyama@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

k-yasukawa@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 2

y-yamawaki@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760109
講義名	卒業研究（地域医療薬学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 窪田 敏夫	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
教授	俵口 奈穂美	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
教授	首藤 英樹	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
准教授	城戸 克己	地域医療薬学センター（漢） 薬局薬剤師経験あり
准教授	大光 正男	地域医療薬学センター（漢） 病院・薬局薬剤師経験あり
講師	香月 正明	地域医療薬学センター 病院・薬局薬剤師経験あり
助教	鎌内 朋子	地域医療薬学センター 薬局薬剤師経験あり
助教	古賀 多津子	地域医療薬学センター 病院・薬局薬剤師経験あり

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。
研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第	実験・調査研究・	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行	分野配属学生

7回	まとめ・セミナー	い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行います、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行います、それに関する研究セミナーを行います。 (7)	分野配属学生への研究指導
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行います、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行います、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行います、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行います、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

当センターは社会の要求に応え、また社会の問題を解決・緩和するための、薬剤師の職能の向上や新しい仕事の開拓を目的とした研究および医療人として海外の“地域の人々”を助ける研究を行っている。幅広い視点から薬剤師の職能を向上させ、地域の健康問題を解決する研究能力を修得出来るよう、各教員の指導の下、学生の興味に応じてテーマ選択を行う。

研究テーマ

- ・ 薬局における薬学的管理の有用性に関する研究
- ・ 聴覚障害の理解向上と合理的配慮に関する研究
- ・ 薬局における「健康セルフチェック」を活用した薬局薬剤師の役割に関する研究
- ・ 糖尿病性皮膚潰瘍におけるプロスタグランジンD2の機能解析
- ・ PVPによる難溶性医薬品の溶解性改善に関する研究
- ・ 医療ニーズ把握のための調査研究

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などを評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

窪田:金曜日 16:00～17:00

学生へのメッセージ

卒業研究は、問題解決能力を身につけるためのものである。生涯にわたり医療に貢献するためには、研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培うことが重要である。

授業用E-mail

t-kubota@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

h-shuto@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 2

n-hyoguchi@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 3

m-ohmitsu@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 4

k-kido@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760104
講義名	卒業研究（衛生化学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 副田 二三夫	健康・環境衛生学講座 衛生化学分野
講師	小武家 優子	健康・環境衛生学講座 衛生化学分野
助教	古賀 貴之	健康・環境衛生学講座 衛生化学分野（漢）

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導

第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (7)	分野配属学生への研究指導
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

- 1.化学物質による神経科学的検討と行動薬理学的研究
- 2.病態時の薬物代謝研究
- 3.アレルギー疾患における生体内生理活性物質の役割
- 4.がん制御機構における乳酸菌の役割
- 5.O-GlcNAc化修飾による転写調節機構に関する研究
- 6.生体金属元素の調節機構に関する研究
- 7.環境要因の脳に対する影響の解析
- 8.脳幹（咳・排尿）反射の薬理・生理-QOL改善薬の開発
- 9.G蛋白質共役型内向き整流性カリウム（GIRK, Kir3）チャネルの生理と薬理
- 10.オセルタミビル及びその代謝物投与によるマウスの行動について
- 11.がん細胞における生体金属元素調節因子の機能に関する研究
- 12.緑茶カテキン類のインスリン抵抗性改善作用の分子機序の解明
- 13.アトピー性皮膚炎抑制に効果を有する乳酸菌の探索
- 14.最新の減感作療法について（調査研究）
- 15.最新の糖尿病治療について（調査研究）
- 16.近年の肺癌に対する薬物治療の現状-分子標的薬の開発について-（調査研究）
- 17.地域医療および地域保健における薬剤師の役割に関する研究（調査研究）

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

月曜日～金曜日 午後1時～5時

(不在の場合はメールにて対応します。)

備考

その他、詳細については衛生化学分野の主任の指示に従うこと。

授業用E-mail

soeda@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

y-kobuke@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 2

ta-koga@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760110
講義名	卒業研究（薬品作用学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 有竹 浩介	生命薬学講座 薬品作用学分野
講師	濱村 賢吾	生命薬学講座 薬品作用学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2

3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3

4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1

2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2

3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1

2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2

3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3

4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4

5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5

6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。	分野配属学生への研究指導

回		(7)	
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

- 1) 生理活性脂肪酸プロスタグランジン(PG)D2の炎症（特に難治性疾患の筋ジストロフィー）とアレルギー反応における生理機能を薬理学的手法を用いて解析したり、PGD2合成酵素(PGDS)タンパク質の結晶構造解析と触媒反応機構の解明や構造情報に基づく効率的なPGDS阻害薬の分子設計、開発と臨床応用について学びます。
- 2) 体液中に存在する脂質2重膜から構成されるエクソソームの慢性疼痛の制御機構解明、特にエクソソーム上の慢性疼痛制御分子の同定とそれを標的とした慢性疼痛治療薬、治療法の開発について学びます。

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。
尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。
講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

講義中を除いて、月曜日から金曜日の9時～17時。土曜日の9時～15時。不在にする場合、事前に掲示連絡、或い授業用メールでも対応します。

学生へのメッセージ

解熱鎮痛薬として身近なアスピリンやインドメタシンは、生理活性脂肪酸のプロスタグランジン（PG）類（主に5種類）の産生を抑制することでその作用を発揮します。プロスタグランジンは、炎症やアレルギーの調節に重要な役割を担っています。

授業用E-mail

k-aritake@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

k-aritake@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 2

k-hamamura@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760112
講義名	卒業研究（薬剤設計学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 今井 輝子	臨床薬学講座 薬剤設計学分野
准教授	中原 広道	臨床薬学講座 薬剤設計学分野（漢）
助教	高露 恵理子	基礎教育講座 薬学教育推進センター 基礎生物学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導

第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (7)	分野配属学生への研究指導
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

これまで修得した薬学専門知識に基づき、さらに深い専門性、研究する心と態度、問題発見・解決能力、創造性と倫理性を身に付けることを目標とする。専任教員が提示する研究テーマのうち最も興味をもつものを選択し、その教員の指導のもと、学生自らが研究の目的・方法を考えて研究計画を立て、調査・実験を実施し、その結果を考察する知識・技能・態度を修得する。研究活動を通して、薬学に関連した学術専門誌・雑誌などを読み理解する知識を修得し、医療現場や学術会議などで必要とされるプレゼンテーション力も身に付ける。また、薬剤師にとって必要な生涯にわたって学び続けるという確固たる意志と探究心を養う。研究内容は、主に物理薬剤学に関連したテーマ（例えば、「界面化学」、「コロイド科学」）を中心に選定する。調査研究に関しては、薬学、特に薬剤学に特化したテーマを選定し、学生自ら能動的に調査できるよう指導していく。

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。
講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

水曜日 午後1時～4時（不在の場合も含め、メールでも対応します。）

学生へのメッセージ

卒業研究は、大学生活を締めくくる重要な科目である。大学における基礎研究に触れることのできる貴重な経験であるので、真摯な態度で取り組んでもらいたい。卒業研究において身につけた高度な専門的知識や技能は、薬剤師免許取得後も必ず役に立つと確信している。

授業用E-mail

t-imai@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

nakahara@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760107
講義名	卒業研究（処方解析学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 村山 恵子	臨床薬学講座 処方解析学分野
准教授	廣村 信	臨床薬学講座 処方解析学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2

3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3

4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1

2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2

3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1

2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2

3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3

4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4

5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5

6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。	分野配属学生への研究指導

回		(7)	
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

下記のテーマで卒業研究を実施します。

1. 嫌気条件下におけるチアミン生合成経路の研究
2. アーキアにおけるピリドキシンの生合成経路
3. チアミンの生合成経路の進化に関する研究
4. 骨粗鬆症治療における高カルシウム血症と薬剤・サプリメントの適正使用に関する調査研究
5. 透析患者における処方薬中に含まれるリン含有量に関する研究
6. ヒトSlc39a9/hZip9転写調節に関する研究
7. 亜鉛トランスポーターZIP9の亜鉛輸送活性に関する研究
8. 抗糖尿病作用を有する金属錯体のインスリン伝達機構活性化機序に関する研究
9. 蘚苔類成分の抗がん活性スクリーニング
10. 生体金属元素の代謝異常と生活習慣病と関連性について

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)
火曜日15時～17時 (村山) 木曜日13時30分～17時 (廣村)
授業用E-mail
murayama@daiichi-cps.ac.jp
参考E-mail 1
m-hiromura@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760113
講義名	卒業研究（臨床薬剤学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 入倉 充	臨床薬学講座 臨床薬剤学分野
教授	有馬 英俊	臨床薬学講座 臨床薬剤学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2

3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3

4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1

2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2

3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1

2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2

3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3

4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4

5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5

6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	卒業研究テーマの決定	現代医療に貢献できるような研究テーマを決定する。	先輩たちの研究、自ら興味ある分野の研究について調査し、研究テーマを決定する。(文献調査)
第2回	研究計画策定	自ら選択した研究テーマの進め方について研究計画を立案する。	文献調査、あるいは分野内での同僚や教員との討論を通して研究計画を立案する。
第3回	実験、調査、まとめ、セミナー	個人あるいは研究グループごとに実験、調査、まとめを行い、研究報告を行う。	様々な研究資源、文献調査、パソコンによるプレゼンテーション
第4回	実験、調査、まとめ、セミナー	個人あるいは研究グループごとに実験、調査、まとめを行い、研究報告を行う。	様々な研究資源、文献調査、パソコンによるプレゼンテーション
第5回	実験、調査、まとめ、セミナー	個人あるいは研究グループごとに実験、調査、まとめを行い、研究報告を行う。	様々な研究資源、文献調査、パソコンによるプレゼンテーション
第6回	研究結果の総まとめ	個人およびグループで卒業研究の総まとめを行い、卒業論文を作成する。	パソコンを用いた論文作成、プレゼンテーション
第7回	卒業研究発表	分野でのセミナーおよび卒業論文発表会で自らの研究内容を発表する。	パソコンを用いたプレゼンテーション

<p>授業概要</p> <p>現代医療に貢献できるような研究テーマにを決定し、研究の背景を最新の文献から調査し、主体的に研究を進める。</p> <p>研究テーマ例：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者における多剤併用、 2. 患者の保険薬局選択に影響を及ぼす要因、 3. 在宅緩和ケアに対する患者満足度および薬剤師へのニーズについて 4. 新生児の薬物代謝変動について 5. 週1投与製剤の現状と有用性 6. 在胎医療における薬剤師業務に関する調査 7. 重症筋無力症における患者満足度 8. 一般名処方現状と問題点の把握
<p>授業形式</p> <p>「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。</p>
<p>評価方法</p> <p>研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。</p> <p>尚、それぞれの評価に関する目標達成度はループリックを用いて評価する。</p> <p>講評は、成績発表後に個別に対応する。</p>
<p>オフィスアワー(授業相談)</p> <p>火曜日 13時～17時および水曜日15時～17時 ただし、不在の場合を含めメールでも対応する。 メールアドレス：m-irikura@daiichi-cps.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ</p> <p>卒業研究は薬剤師に求められる基本的な資質である研究能力を身につけるため授業科目です。各自、医療に貢献できる研究テーマを決め、その背景を最新の文献から調査し、課題に取り組みましょう。研究を進めるには多くの壁があります。その壁に立ち向かい、乗り越えることが大きな喜びとなり、自然と問題解決能力が身につきます。一緒に頑張りましょう。</p>
<p>授業用E-mail</p> <p>m-irikura@daiichi-cps.ac.jp</p>
<p>参考E-mail 1</p> <p>h-arima@daiichi-cps.ac.jp</p>

講義コード	2760105
講義名	卒業研究（天然物化学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎長島 史裕	医薬品化学・物性学講座 天然物化学分野（漢）
講師	香川 正太	医薬品化学・物性学講座 天然物化学分野（漢）

求められる基本的な資質

薬剤師として求められる基礎的な科学力，研究能力および教育能力を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略	コアカリSBO番号
第1回	分野概要説明	分野（長島研究テーマ、香川研究テーマ）の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導	G(1)1,G(1)2,G(1)3,G(1)4
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分け（長島指導、香川指導）を行います。	分野配属学生への研究指導	G(1)1,G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)1,G(2)2,G(2)3
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナー	分野配属学生への研究指導	G(1)1,G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)1,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3

		を行います。 (1)	
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導 G(1)1,G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)1,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導 G(1)1,G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)1,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナー	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4

		を行います。 (4)	
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナー	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4

		を行います。 (7)	
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナー	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4,G(3)5

		を行います。 (10)	
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4,G(3)5
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4,G(3)5
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導 G(1)2,G(1)3,G(1)4,G(2)2,G(2)3,G(2)4,A(2)④3,G(3)1,G(3)2,G(3)3,G(3)4,G(3)5,G(3)6

授業概要

分野に所属する2名の教員が研究実験および調査研究の指導を行う。

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などを評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

参考書

適宜、「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」に関する文献等を配付する。

オフィスアワー(授業相談)

長島；月曜日 13時30分～17時00分（不在の場合も含め、メールにて対応）

香川；月曜日 13時00分～17時00分（不在の場合も含め、メールにて対応）

授業用E-mail

f-nagashima@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

s-kagawa@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760103
講義名	卒業研究（生薬学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 久保山 友晴	医薬品化学・物性学講座 生薬学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3

4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (7)	分野配属学生への研究指導

第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

主な研究テーマ

- ・難治性不安障害モデルマウスの確立
- ・孤発性アルツハイマー病モデルマウスの確立
- ・アルツハイマー病、脊髄損傷、不安障害などの難治性神経疾患の根本治療を目指した研究
- ・和漢薬の作用機序の解明

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

月曜日～金曜日 午後1時～5時（不在の時はメールにて対応します）

学生へのメッセージ

漢方薬は、西洋薬では対応できない疾患に対する有効性を示したり、西洋薬に相補的な役割を示したりします。また、これらに関するエビデンスも蓄積されてきています。漢方薬、それらを構

成する生薬あるいは天然物より研究課題を見出し科学的な視点から捉えられるようになりましよう。そしてこれらの研究から新たなscienceを創り、人類の健康に貢献しましょう。

授業用E-mail

t-kuboyama@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760102
講義名	卒業研究（和漢薬物学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森永 紀	医薬品化学・物性学講座 和漢薬物学分野（漢）
助教	小川 鶴洋	医薬品化学・物性学講座 和漢薬物学分野（漢）
助手	大渡 勝史	付属施設 薬用植物園

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導

第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(7)	分野配属学生への研究指導
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。(11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

1. 生薬成分特異的モノクローナル抗体を利用した生薬・漢方薬の効能および副作用に関する研究
2. 精油・香気性化合物の吸入投与による鎮静・摂食促進作用に関する研究
3. 伝統薬、OTC薬の科学的エビデンスに関する研究
4. 歴代公定書、教科書に記載される生薬の効能・効果に関する調査研究
5. 日、中、韓、朝、台の薬局方に関する調査研究

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する(50%)。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する(20%)。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する(30%)。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

月～金の16時30分～17時

学生へのメッセージ

和漢薬物学分野では、生薬・漢方薬に関する実験研究・調査研究をはじめ、各種薬用植物の栽培・成分調査研究も行っています。

1つの生薬やある特定の有効成分に関して、実験研究・調査研究を行っていく中で、調べ学習や自己学習を重ね、問題解決能力も身に付いてきます。

皆さんが実験や調査した研究成果は、学会発表や論文公表を行うことで広く社会へ発信し、世の中に役立てられる研究成果が沢山あります。

「世界初の発見！」学生の皆さんにも、ぜひ経験して欲しいと思っています。

授業用E-mail

o-morinaga@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

ka-ogawa@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760106
講義名	卒業研究（免疫薬品学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松原 大	生命薬学講座 免疫薬品学分野
准教授	小川 和加野	生命薬学講座 免疫薬品学分野（漢）

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2

3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3

4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1

2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2

3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1

2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2

3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3

4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4

5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5

6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。	分野配属学生への研究指導

回		(7)	
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

実験研究コースは、以下のテーマの中からの希望となります。

1. 母乳からのHTLV-1感染に関する疫学調査
 - ・リアルタイムPCRによるプロウイルス量の定量
 - ・出産後の母乳へのプロウイルス量の経時変動について
2. 百日咳菌由来aminopeptidase Nに関する研究
 - ・クローニングから結晶化への挑戦
3. 肺炎桿菌に関する研究
 - ・Nov1-8の抗菌薬剤耐性化の原因究明
4. 緑膿菌に関する研究
5. その他

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)
月～金曜日午後 1 時～ 5 時 (不在の場合はメールにて対応します)
備考
免疫薬品学分野の主任の指示に従うこと。
授業用E-mail
matsubara@daiichi-cps.ac.jp
参考E-mail 1
w-ogawa@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760108
講義名	卒業研究（分析化学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 藤井 清永	健康・環境衛生学講座 分析化学分野（漢）
講師	藤井 由希子	健康・環境衛生学講座 分析化学分野（漢）

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2

3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3

4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1

2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2

3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1

2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2

3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3

4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4

5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5

6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。	分野配属学生への研究指導

回		(7)	
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

月曜日から金曜日 午後1時～5時（不在の場合はメールにて対応します）

授業用E-mail

fujii@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

yu-fujii@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760115
講義名	卒業研究（薬物解析学）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎小松 生明	医薬品化学・物性学講座 薬物解析学分野（漢）
准教授	田畠 健治	医薬品化学・物性学講座 薬物解析学分野
准教授	高村 雄策	医薬品化学・物性学講座 薬物解析学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導
第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導

第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (7)	分野配属学生への研究指導
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

1. 神経障害性疼痛モデルマウスに対する精油成分の有効性
2. 抗うつ薬の末梢性鎮痛作用機序の解明
3. モルヒネの低用量を可能にする鎮痛補助薬の探索研究
4. 防己黄耆湯およびシノメニンの鎮痛作用機序の解明
5. 光学的酸素センサーの医学的応用
6. 微生物が作るキレート化合物の機能解明と創薬研究への応用
7. 次世代型アルツハイマーモデルマウス (appNL-P-F/NL-P-F KI) における行動関連神経活動の変動

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。

講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

小松：火曜日 午後4時～5時（不在時にはメールにて対応）

高村：メールにて対応

田畠：火曜日 午後4時～5時（不在時にはメールにて対応）

授業用E-mail

komatsu@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

k-tabata@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 2

y-takamura@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2760116
講義名	卒業研究（薬学教育推進）
(副題)	シラバス 16単位
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	16
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 4～6年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 白谷 智宣	基礎教育講座 薬学教育推進センター 基礎化学分野
准教授	清水 典史	基礎教育講座 薬学教育推進センター 基礎生物学分野
准教授	デニース エップ	基礎教育講座 薬学教育推進センター 語学分野（漢）
助手	松延 千春	基礎教育講座 薬学教育推進センター 基礎数学分野
助手	高口 寛子	基礎教育講座 薬学教育推進センター 情報教育学分野
助手	椿 友梨	基礎教育講座 薬学教育推進センター 基礎物理学分野

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

研究能力

教育能力

を中心とした基本的な10の資質全て

一般目標(GIO)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

研究マインドを持って生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

到達目標(SBO)

G 薬学研究

(1)薬学における研究の位置づけ

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。G(1)1
2. 研究には自立性と独立性が求められていることを知る。G(1)2
3. 減少を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。G(1)3
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。G(1)4

(2)研究に必要な法規範と倫理

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。G(2)1
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。G(2)2
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。G(2)3、A(2)④3

(3)研究の実践

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。G(3)1
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。G(3)2
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。G(3)3
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。G(3)4
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。G(3)5
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。G(3)6

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	分野概要説明	分野の概要を説明します。	分野配属学生への研究指導
第2回	研究テーマの設定	研究テーマに従い、研究グループ分けを行います。	分野配属学生への研究指導
第3回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (1)	分野配属学生への研究指導
第4回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (2)	分野配属学生への研究指導
第5回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (3)	分野配属学生への研究指導
第6回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (4)	分野配属学生への研究指導
第7回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (5)	分野配属学生への研究指導

第8回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (6)	分野配属学生への研究指導
第9回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (7)	分野配属学生への研究指導
第10回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (8)	分野配属学生への研究指導
第11回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (9)	分野配属学生への研究指導
第12回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (10)	分野配属学生への研究指導
第13回	実験・調査研究・まとめ・セミナー	研究グループ毎に実験、調査研究、まとめを行い、それに関する研究セミナーを行います。 (11)	分野配属学生への研究指導
第14回	研究結果の総まとめ	学生個人の研究結果の総まとめを行います。	分野配属学生への研究指導
第15回	卒論発表	分野での研究セミナーおよび卒業論文発表会で発表します。	分野配属学生への研究指導

授業概要

学生ピア・チューター導入とその教育効果

授業におけるアクティブラーニングの導入とその成果の検証

効果的なe-ラーニング教材の開発

学習習慣や学生生活が学業に与える影響の調査研究

各種試験データに基づいた進級・卒業・国家試験との統計調査

授業形式

「実験研究コース」あるいは「調査研究コース」のいずれかを選択履修する。

評価方法

研究に取り組む姿勢・研究発表、薬剤師として要求される基礎知識を総合的に評価する。主査は卒業論文作成までの全ての過程（5年次提出の中間報告書を含む）を評価する（50%）。副査は2名とし、1名は発表会における要旨、態度、内容などをで評価する（20%）。他の1名は卒業論文を査読しその結果を評価する（30%）。主査、副査の評価をあわせて、卒業研究の評価とする。

尚、それぞれの評価に関する目標達成度はルーブリックを用いて評価する。
講評は、成績発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

月曜日～金曜日13時～17時（不在の場合はメールにて対応します。）

授業用E-mail

shiratan@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

depp@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 2

shimizu@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 3

c-matsunobu@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2762200
講義名	ポスト教育 29-27
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	1.5
時間	1.50
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	必修科目 実習・演習
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 5年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 窪田 敏夫	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
教授	増田 寿伸	薬学教育支援センター
教授	仮屋園 博子	薬学教育支援センター 病院薬剤師経験あり
教授	俵口 奈穂美	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
教授	首藤 英樹	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
准教授	城戸 克己	地域医療薬学センター (漢) 薬局薬剤師経験あり
准教授	大光 正男	地域医療薬学センター (漢) 病院・薬局薬剤師経験あり
講師	岡崎 史泰	地域医療薬学センター 薬局薬剤師経験あり
講師	香月 正明	地域医療薬学センター 病院・薬局薬剤師経験あり
助教	鎌内 朋子	地域医療薬学センター 薬局薬剤師経験あり
助教	古賀 多津子	地域医療薬学センター 病院・薬局薬剤師経験あり

求められる基本的な資質

薬剤師としての心構え
 患者・生活者本位の視点
 コミュニケーション能力
 チーム医療への参画
 地域の保健・医療における実践的能力

自己研鑽
教育能力

一般目標(GIO)

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

到達目標(SBO)

(1) 薬学臨床の基礎

F(1)②5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)

F(1)②6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)

F(3)③7. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。

F(3)③8. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。

F(3)③9. 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方立案を提案できる。(知識・態度)

F(3)④12. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)

・多職種連携協働とチーム医療

A(4)-1 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について討議する

A(4)-2 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について討議する

A(4)-3 チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について討議する

A(4)-4 自己の能力の限界、及び状況に応じて他者に協力・支援を求めることについて討議する

A(4)-5 チームワークと情報共有の重要性、及びチームの一員としての役割について討議する

・自己研鑽と次世代を担う人材の育成

A(5)①-1 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩について、課題を見出し、解決にむけて討議する

・生涯学習

A(5)-③-1 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について討議する

・次世代を担う人材の育成

A(5)-④1 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。

A(5)-④2 後輩等への適切な指導を実践する

授業計画表

回	項目	内容	方略	コアカリSBO番号
第1回	発表準備 ガイダンス	実務実習で学んだ内容を各自でまとめる		F(1)②5-6、F(3)③7-9、 F(3)④12
第2回	発表準備	実務実習で学んだ内容を各自でまとめる		F(1)②5-6、F(3)③7-9、

回		とめる	F(3)④12
第3回	発表準備	実務実習で学んだ内容を各自でまとめる	F(1)②5-6、F(3)③7-9、 F(3)④12
第4回	発表準備	実務実習で学んだ内容を各自でまとめる	F(1)②5-6、F(3)③7-9、 F(3)④12
第5回	発表準備	実務実習で学んだ内容を各自でまとめる	F(1)②5-6、F(3)③7-9、 F(3)④12
第6回	発表準備	実務実習で学んだ内容を各自でまとめる	F(1)②5-6、F(3)③7-9、 F(3)④12
第7回	発表準備	実務実習で学んだ内容を各自でまとめる	F(1)②5-6、F(3)③7-9、 F(3)④12
第8回	口頭発表	口頭発表形式で発表し質疑応答を行う	F(1)②5-6、F(3)③7-9、 F(3)④12 A(5)-④1、2
第9回	口頭発表	口頭発表形式で発表し質疑応答を行う	F(1)②5-6、F(3)③7-9、 F(3)④12 A(5)-④1、2
第10回	SGD	実務実習に関する課題についてグループ討論	F(1)②5-6、A(4)-1-5,A(5)-①-1、A(5)-③-1
第11回	SGD	実務実習に関する課題についてグループ討論	F(1)②5-6、A(4)-1-5,A(5)-①-1、A(5)-③-1
第12回	プロダクト作成	実務実習に関する課題についてグループ討論	F(1)②5-6、A(4)-1-5,A(5)-①-1、A(5)-③-1
第13回	プロダクト作成	実務実習に関する課題についてグループ討論	F(1)②5-6、A(4)-1-5,A(5)-①-1、A(5)-③-1
第14回	発表	SGDでまとめた内容を発表	F(1)②5-6、A(4)-1-5,A(5)-①-1、A(5)-③-1 A(5)④-1-2
第15回	発表	SGDでまとめた内容を発表	F(1)②5-6、A(4)-1-5,A(5)-①-1、A(5)-③-1 A(5)④-1-2

授業概要

実務実習（病院）での体験をスライドとしてまとめ、個々に口頭発表を行う。さらに、実習施設で学んだ内容を、スモールグループディスカッション（SDG）を行い、プロダクトとして作成する。個々の発表とグループ発表を通じて、学生の体験を共有し、実務実習の一般目標である【患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物

療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。】について理解を深める。また、実務実習直前の4年生と自分の体験について討論し、後輩のロールモデルとなるようにする。

授業形式

口頭発表、SGD・プロダクト作成・発表

評価方法

口頭発表（50%）、SGD（50%）
（評価項目、到達目標等はルーブリックを参照すること）
講評は、成績公表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

月曜日～金曜日：13時～17時（担当：窪田）
不在の場合はメールにて対応する

学生へのメッセージ

実務実習の一般目標【患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。】について振り返り、自分の成長に必要な知識・技能・態度を考えてみましょう。

授業用E-mail

t-kubota@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2750300
講義名	診療科別治療論 29-27
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1.5
時間	1.50
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目 (本学独自科目)
科目分野名	必修科目 医療系
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 5年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉武 毅人	成人看護学領域 医師経験あり
教授	小山 進	生命薬学講座 薬物治療学分野(漢) 医師経験あり
講師	香月 正明	地域医療薬学センター 病院・薬局薬剤師経験あり

求められる基本的な資質

薬物療法における実践的能力

一般目標(GIO)

薬剤師の主な医療現場となる病院のさまざまな診療科において、どのような疾患を取り扱っているのかを学ぶ。代表的な疾患とその治療法を学ぶことは、将来の薬剤師となる薬学生にとって重要である。本科目では、九州中央病院各診療科の現役医師による講義をしていただく。

到達目標(SBO)

医療現場の現状を知る。

- ・各診療科で取り扱う疾患を知る。
- ・罹患率の高いcommon diseaseについて学ぶ。
- ・代表的疾患とその治療に関して、最新情報を得る。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	香月正明	ガイダンス	診療科別治療論について	講

				義
第2回	竹迫 仁則 (九州中央病院医師)	脳血管内科	「高齢者包括的治療」	講義
第3回	小田代 敬太 (九州中央病院医師)	循環器内科	「虚血性心疾患と心不全」	講義
第4回	檜沢 一興 (九州中央病院医師)	消化器内科	「薬剤誘発性の消化管疾患」	講義
第5回	中村 俊彦 (九州中央病院医師)	消化器外科	「胃癌・大腸癌の治療」	講義
第6回	菊池 智子 (九州中央病院医師)	皮膚科	「薬疹について」	講義
第7回	水政 透 (九州中央病院医師)	腎臓内科	「腎臓のしくみと働き、慢性腎臓病（CKD）の治療」	講義
第8回	古藤 洋 (九州中央病院医師)	呼吸器内科	「（呼吸器疾患における）薬物吸入療法」	講義
第9回	前原 伸一郎 (九州中央病院医師)	救急部	「救急外来にくる疾患」	講義
第10回	古賀 恒久 (九州中央病院医師)	総合内科	「感染症の診断と治療・インフルエンザ」	講義
第11回	長谷川 裕平 (九州中央病院医師)	眼科	「眼科治療」	講義
第12回	寺本 成一 (九州中央病院医師)	乳腺外科	「乳がんの診断と治療」	講義
第13回	五島 大祐 (九州中央病院医師)	糖尿病内科	「内分泌と糖尿病」	講義
第14回	関 成人 (九州中央病院医師)	泌尿器科	「排尿障害と前立腺肥大」	講義

第15回	足立 英輔 (九州中央病院医師)	肝・胆・膵外科	「肝・胆道・膵疾患の治療」	講義
------	---------------------	---------	---------------	----

授業概要

大規模臨床研究によるエビデンスを基礎として、疾患概念や治療法は刻々と変化している。毎回の授業では、各診療科の現役医師に最新情報を講義していただく。診療の都合上、講師あるいは講義日程を変更する場合がある。

授業形式

- ・ Power Pointを用いた動画視聴で行う。
- ・ 資料プリントを配布することがある。

評価方法

講義を総括したレポートにより評価する（100%）。
講評は、合格発表後に個別に対応する。

教科書（ISBN番号）

なし

参考書

なし

オフィスアワー(授業相談)

月曜日 午後1時～3時（対応：看護学部 成人看護学領域；吉武 毅人）
不在の場合はメールにて対応する。
メールアドレス：t-yoshitake@daiichi-cps.ac.jp

学生へのメッセージ

講義レポートについて

テーマ：「チーム医療（特に医師との協働）における、今後の薬剤師の果たすべき役割について」

1,600字～2,000字（字数を記載）

レポートの内容により評価する（不可あり）。

上記の内容を意識しながら、講義を聴講すること。

備考

各診療科の医師は、多忙な診療の時間を割いて、講義を行ってくださることに十分留意する。

参考URL 1

<http://kyushu-ctr-hsp.com/>

授業用E-mail

t-yoshitake@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2761700
講義名	薬局薬学実習 29-27
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	1.50
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	選択科目 アドバンスト科目
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 5～6年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 香月 正明	地域医療薬学センター 病院・薬局薬剤師経験あり
教授	首藤 英樹	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
助教	古賀 多津子	地域医療薬学センター 病院・薬局薬剤師経験あり

求められる基本的な資質

薬剤師としての心構え、患者・生活者本位の視点
 コミュニケーション能力、チーム医療への参画
 薬物治療における実践的能力、地域の保健・医療における実践的能力

一般目標(GIO)

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。
 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

到達目標(SBO)

- ・在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。F (5) ①-4
- ・地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。F (5) ①-5
- ・在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報

告を体験する。F (5) ①-6

・代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。F (5) ③-2

代表的な症候に対する一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。F (5) ③-3

授業計画表

回	項目	内容	方略	コアカリ SBO番号
第1回	薬局薬学コースガイダンス	薬局薬学コースの講義と実習内容、スケジュール、報告会説明	講義	
第2回	薬局におけるOTC薬販売の実践	研修の心構え	実習	F (5) ③-2 F (5) ③-3
第3回	薬局におけるOTC薬販売の実践	接客マナーの基礎研修	実習	F (5) ③-2 F (5) ③-3
第4回	薬局におけるOTC薬販売の実践	ドラッグストアの売り場作りの基礎知識	実習	F (5) ③-2 F (5) ③-3
第5回	薬局におけるOTC薬販売の実践	OTC薬販売の基礎知識	実習	F (5) ③-2 F (5) ③-3
第6回	薬局におけるOTC薬販売の実践	店舗実習	実習	F (5) ③-2 F (5) ③-3
第7回	在宅医療の実践	在宅訪問までの流れ	実習	F (5) ①-4 F (5) ①-5 F (5) ①-6
第8回	在宅医療の実践	在宅訪問準備	実習	F (5) ①-4 F (5) ①-5 F (5) ①-6
第9回	在宅医療の実践	在宅医療の実践	実習	F (5) ①-4 F (5) ①-5 F (5) ①-6
第10回	在宅医療の実践	在宅医療の実践	実習	F (5) ①-4 F (5) ①-5 F (5) ①-6
第11回	レセプト請求の実践	処方せんの記載事項	実習	
第12回	レセプト請求の実践	調剤報酬請求について	実習	
第13回	レセプト請求の実践	レセプトについて	実習	

第14回	まとめ	実習のまとめ	講義	
第15回	成果報告	実習成果報告会	講義	

授業概要

地域における薬局の役割、機能、責任を理解するため、2.5カ月の薬局実務実習を基礎として、患者に関わる薬局の業務全般を体験、実践する。さらに地域医療における薬剤師業務のうち、主にOTC薬販売、在宅医療、レセプト請求について知識、技能、態度を修得する。

授業形式

講義と実習

評価方法

レポート40%、報告会での発表40%、態度 20% (ルーブリック形式)
講評は、合格発表後に個別に対応する。

教科書 (ISBN番号)

「スタンダード薬学シリーズII 7 臨床薬学I. 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤」日本薬学会 編 (東京化学同人)
ISBN978-4-8079-1719-8

オフィスアワー(授業相談)

木曜日 13:00~17:00
不在の場合はメールにて対応します (m-katsuki@daiichi-cps.ac.jp)

学生へのメッセージ

2.5カ月の薬局実務実習で実施する機会が少ないOTC、在宅、レセプトに関する実習を主に実施します。

備考

実務実習後のアドバンスト科目として5つの科目 (病院薬学実習・薬局薬学実習・伝統医療薬学実習・学内研修・海外医療研修) を開講する。実務実習を終了した学生はこの中から1つの科目を選択する。科目選択の時期、方法、費用等については別途連絡する。

授業用E-mail

m-katsuki@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2761800
講義名	病院薬学実習 29-27
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	1.50
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	選択科目 アドバンスト科目
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 5～6年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 窪田 敏夫	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり
教授	仮屋 蘭 博子	薬学教育支援センター 病院薬剤師経験あり
教授	俵口 奈穂美	地域医療薬学センター 病院薬剤師経験あり

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

薬剤師としての心構え

薬物治療における実践的能力

一般目標(GIO)

病院実務実習で修得した実践的な知識、態度、技能に加えて、精神科領域において専門的に対応する薬剤師に必要な基本的な知識、態度、技能などを体験する。精神科領域における医療チームの構成や各構成員の役割を理解し、薬剤師の位置づけ、役割を理解する。

到達目標(SBO)

代表的な精神疾患（うつ病・躁病・統合失調症・認知症・不安神経症など）に対する適切な薬物療法について説明できる（知識）

精神疾患をもつ患者への服薬指導、コミュニケーション方法について見学・体験する（技能・態度）

向精神薬などの副作用の予測と、その解決方法について討議する（知識・態度）

精神疾患患者の社会復帰の支援における薬剤師の役割について討議する（知識・態度）

授業計画表

回	項目	内容	方略	コアカリSBO 番号
第1回	病院薬学コースガイダンス	病院薬学コースの講義と実習内容、スケジュール、報告会説明	講義	
第2回	精神神経疾患に関する薬物療法	精神神経疾患に関する薬物療法	講義	関連SBO E2(1)③4,5,6,10
第3回	精神神経疾患に関する薬物療法	精神神経疾患に関する薬物療法	講義	関連SBO E2(1)③4,5,6,10
第4回	精神神経疾患に関する薬物療法	精神神経疾患に関する薬物療法	講義	関連SBO E2(1)③4,5,6,10
第5回	精神神経疾患に関する薬物療法	精神神経疾患に関する薬物療法	講義	関連SBO E2(1)③4,5,6,10
第6回	精神神経科専門病院における実習		実習(5日間)	関連SBO F(3)、(4)
第7回	まとめ(3コマ)	実習のまとめ	講義	
第8回	成果報告(2コマ)	実習成果報告会	講義	

授業概要

地域における精神科専門病院とそこで働く薬剤師の役割、機能、責任を理解するため、福岡市内の精神科専門病院で精神科領域の薬物療法を中心とした実習を体験する。

開講時期：2022年2月下旬～3月中旬

定員：6名（受け入れ病院の状況により変動する可能性があります）

授業形式

講義と実習

評価方法

レポート40%、報告会での発表40%、態度 20%（ルーブリック形式）

オフィスアワー(授業相談)

窪田:金曜日 16:00～17:00

学生へのメッセージ

うつなどのメンタルケアが必要な患者は増えてきています。さらに、高齢化に伴い認知症の患者は急増しています。こうした患者に対して適切な薬物療法を行い、社会復帰につなげていくことが必要です。5年次の病院実習では、精神科を専門とした病院での実習の機会は少なく、精神科領域における薬剤師の役割を体験する貴重な機会となります。

備考

実務実習後のアドバンスト科目として5つの科目（病院薬学実習・薬局薬学実習・伝統医療薬学実習・学内研修・海外医療研修）を開講する。実務実習を終了した学生はこの中から1つの科目を選択する。科目選択の時期、方法、費用等については別途連絡する。

授業用E-mail

t-kubota@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2761900
講義名	伝統医療薬学実習 29-27
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	1.50
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	選択科目 アドバンスト科目
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 5～6年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 池谷 幸信	薬学教育支援センター（漢）
教授	森永 紀	医薬品化学・物性学講座 和漢薬物学分野（漢）
准教授	久保山 友晴	医薬品化学・物性学講座 生薬学分野
准教授	城戸 克己	地域医療薬学センター（漢） 薬局薬剤師経験あり

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

薬剤師としての心構え

薬物治療における実践的能力

一般目標(GIO)

漢方薬の原料生薬

基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。

漢方治療

患者情報に応じた漢方薬の選択、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な漢方治療を

実施するための漢方治療に関する基本的事項を修得する。

臨床現場における漢方薬

漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項

を修得する。

到達目標(SBO)

- ① 漢方調剤を実践できる
漢方医療施設や学内において、漢方調剤を体験する。
- ② 伝統医療に関する知識と実践
漢方医療施設における漢方診療の体験、学内における生薬の修治・漢方調剤・漢方の品質管理の実習、漢方や中医学の診断や漢方の歴史の講義を通じて、伝統医療に関する深い知識と実践能力を習得する。

授業計画表

回	時限	担当教員	項目	内容	方略
第1回	集中講義	池谷幸信 城戸克己 森永紀 久保山友晴	伝統医療薬学実習ガイダンス	講義内容、実習内容、スケジュール、報告会の説明	講義
第2回	集中講義	城戸克己	漢方の歴史	漢方医学、漢方薬の誕生と発展の歴史	講義
第3回	集中講義	池谷幸信	漢方診断の実際	漢方の診断法	講義
第4回	集中講義	池谷幸信	中医学の治療	中医学の治療法の概説	講義
第5回	集中講義	城戸克己	生薬の修治	漢方構成生薬の代表的な修治法	講義
第6回	集中講義		漢方医療	医療施設での漢方実習	実習
第7回	集中講義		漢方薬の調剤	医療施設での漢方実習	実習
第8回	集中講義	城戸克己	生薬の修治	学内実習 代表的な生薬の修治	実習
第9回	集中講義	森永紀	漢方薬の配合生薬や民間薬の基原植物の実習	第一薬科大学 薬草園実習 生薬の基原植物、使用部位	実習
第10回	集中講義	池谷幸信	漢方調剤	学内実習 煎剤、散剤、ゼリー剤	実習
第	集中	森永	薬用植物の研修	中富記念くすり博物館での薬用に	実

11 回	講義	紀		使われる植物の実習	習
第 12 回	集中 講義	久保山 友晴	漢方調剤	学内実習 軟膏剤、丸剤	実 習
第 13 回	集中 講義	池谷 幸信	漢方製剤の品質管理	漢方製剤の分析と定量	実 習
第 14 回	集中 講義	池谷 幸信 城戸 克己 森永 紀 久保山 友晴	実習のまとめ（3コマ）	実習の報告会資料作成	講 義
第 15 回	集中 講義	池谷 幸信 城戸 克己 森永 紀 久保山 友晴	実習の成果報告（2コマ）	実習の成果報告会	講 義

授業概要

漢方医療の関連施設における研修、学内での漢方薬の調剤や分析等の実習を行う。また講義形式で、漢方の歴史、漢方の診断法、漢方薬に使われる生薬の修治についての知識を深く習得する。伝統医療に関する実習と講義を通じて、患者様にとって質の高い医療を行うことができる薬剤師になることを目標とする。

開講時期：2022年2月下旬～3月中旬

定員：6名

授業形式

講義と実習

評価方法

レポート40%、報告会での発表40%、態度 20%（ルーブリック形式）

参考書

「スタンダード薬学シリーズII 3 化学系薬学III. 自然が生み出す薬物」日本薬学会 編（東京化学同人）（ISBN978-4-8079-1707-5）

オフィスアワー(授業相談)

木曜日 13:00～17:00

不在の場合はメールにて対応します。池谷幸信 (y-ikeya@daiichi-cps.ac.jp)

城戸克己 (k-kido@daiichi-cps.ac.jp)

森永 紀 (o-morinaga@daiichi-cps.ac.jp)

久保山 友晴 (t-kuboyama@daiichi-cps.ac.jp)

学生へのメッセージ

医療現場での漢方診療や漢方調剤を体験するとともに、漢方薬の剤形として主流となっている漢方エキス製剤を含めた各種剤形について講義や実習を通して深く学び、医療の場で漢方治療を実践できる薬剤師となることを目指します。

備考

実務実習後のアドバンスト科目として5つの科目（病院薬学実習・薬局薬学実習・伝統医療薬学実習・学内研修・海外医療研修）を開講する。実務実習を終了した学生はこの中から1つの科目を選択する。

科目選択の時期、方法、費用等については別途連絡する。

授業用E-mail

y-ikeya@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 1

k-kido@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 2

o-morinaga@daiichi-cps.ac.jp

参考E-mail 3

t-kuboyama@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2762000
講義名	海外医療研修 29-27
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	1.50
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	選択科目 アドバンスト科目
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 5～6年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小山 進	生命薬学講座 薬物治療学分野（漢） 医師経験あり
教授	小松 生明	医薬品化学・物性学講座 薬物解析学分野（漢）
准教授	デニース エップ	基礎教育講座 薬学教育推進センター 語学分野（漢）
准教授	大光 正男	地域医療薬学センター（漢） 病院・薬局薬剤師経験あり

求められる基本的な資質

- ・ 薬剤師としての心構え
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 自己研鑽

一般目標(GIO)

米国の大学における講義、実習、及び見学を通して、実践的な医療系英語力を涵養すると同時に自己研鑽を積む。

到達目標(SBO)

- ・ 日米の医療保険制度の相違に関して説明できる。
- ・ 世界的視野での疫学、公衆衛生の動向に関して説明できる。
- ・ フィジカルアセスメントの意義を説明でき、その基本手技を行うことができる。
- ・ 終末医療における疼痛コントロールに関して説明できる。
- ・ 小児薬学の特徴に関して説明できる。
- ・ ワクチン接種に関する基本事項を説明できる。

- ・米国の病院薬剤業務の特徴を概説できる。
- ・米国の市中薬局業務の特徴を概説できる。
- ・英語を用いた医療コミュニケーションができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	小松生明	事前教育 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・米国の医療制度 ・WHOの活動概要 ・フィジカルアセスメントの復習 	SGD
第2回	デニスエップ	事前教育 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療英語コミュニケーションの基本 ・予防医学におけるワクチンの重要性 	SGD
第3回		デュークイン大学：1日目 (Dr. Khalid Kamal, Dr. Jordan Covvey)	<ul style="list-style-type: none"> ・日米の医療保険制度 ・国際的疫学、公衆衛生事情 	講義
第4回		デュークイン大学：2日目 (Dr. Robert Laux, Ms. Diane Rhodes)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント ・ワクチン接種 	講義、 実習
第5回		デュークイン大学：3日目 (Dr. Mary Mihalyo, Dr. Vincent Giannetti, Dr. Branden Nemecek)	<ul style="list-style-type: none"> ・終末医療と疼痛コントロール ・円滑な医療コミュニケーション法 ・薬局見学 (Merey Hospital Pharmacy) 	講義、 見学
第6回		デュークイン大学：4日目 (Dr. Autumn Stewart, Dr. Jennifer Elliott, Dr. Suzanne Higginbotham)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンと免疫 ・小児薬学 ・病院薬剤部見学 (Mylan School of Pharmacy Wellness Center and Pharmacy) 	講義、 見学
第7回		デュークイン大学：5日目 (Dr. Michael Perry)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床薬学概論 	講義
第8回	小山進	総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・米国研修成果に関するPowerPointによるプレゼンテーション 	SGD

授業概要

本学と学術交流提携校である米国デュークイン大学ミラン薬学校（ペンシルバニア州 ピッツバーグ市）で講義を受け、実習を行うとともに、大学附属病院薬剤部と薬局の見学を行う。

授業形式
講義、実習、見学、及びスモールグループディスカッション（SGD）を基本とする。
評価方法
授業中に作成したSGDプロダクト（30%）、デュークイン大学での講義、実習、及び病院・薬局見学のレポート（70%）により評価する。作成したレポートは最終的に「米国研修報告書」として冊子体にまとめる。講評は、合格発表後に個別に対応する。
教科書（ISBN番号）
指定なし
参考書
指定なし
オフィスアワー(授業相談)
月曜日 午後1時～4時 不在の場合はメールにて対応する。
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・デュークイン大学研修前に、本学において医療問題（医療制度、公衆衛生、終末医療、医療コミュニケーションなど）に関する事前学習をSGD形式で行う。 ・デュークイン大学研修中は、講師の先生や薬学部生と積極的に英語でディスカッションする機会を設けている。 ・デュークイン大学研修後、SGD形式による総まとめを行い、各自レポートを作成する。作成したレポートは「2019年度 米国研修報告書」としてまとめる。
備考
<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加募集は、9月以降に掲示板やホームページで案内する。 ・研修前に、海外生活に関する注意事項などのオリエンテーションを行う。 ・デュークイン大学での講義、実習、及び見学スケジュールは、先方の都合で変更となる場合がある。
授業用E-mail
s-koyama@daiichi-cps.ac.jp
参考E-mail 1
komatsu@daiichi-cps.ac.jp
参考E-mail 2
depp@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	2762100
講義名	学内研修 29-27
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	1.50
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	選択科目 アドバンスト科目
対象学科・年次	薬学科 漢方薬学科 5～6年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎有竹 浩介	生命薬学講座 薬品作用学分野
教授	入倉 充	臨床薬学講座 臨床薬剤学分野
教授	柴山 周乃	薬学教育支援センター 医師経験あり
教授	門口 泰也	医薬品化学・物性学講座 薬品化学分野（漢）
教授	平田 伸子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
准教授	清水 典史	基礎教育講座 薬学教育推進センター 基礎生物学分野
准教授	中原 広道	臨床薬学講座 薬剤設計学分野（漢）
講師	香月 正明	地域医療薬学センター 病院・薬局薬剤師経験あり

求められる基本的な資質

基礎的な科学力

薬物療法における実践的能力

一般目標(GIO)

薬学研究、創薬研究、医薬品臨床開発、薬局や病院などで求められる、より専門的な知識と能力を習得する。

創薬を通じて医療に貢献できる薬剤師、薬局など地域活動に関連した知識や技能を身につけた薬剤師、医師、看護師等と連携して円滑なチーム医療を遂行できる薬剤師をといた、個々の現場に即した実学的な知識や技術を、それぞれの専門家の講義から習得する。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容
第1回	窪田敏夫	地域医療薬学センター	医薬分業における薬剤師の価値について
第2回	中原広道	薬剤設計学分野	肺サーファクタントに関する研究
第3回	小山進	薬物治療学分野	海外医療研修 米国デュークイン大学ミラン薬学校の例
第4回	森脇哲治	佐賀県原子力安全対策課副課長	行政における薬剤師の役割
第5回	門口泰也	薬品化学分野	医薬品合成化学
第6回	安藤満代	精神看護学領域	在宅ホスピスで療養する患者と家族に対するナラティブアプローチの実践
第7回	香月正明	地域医療薬学センター	重症筋無力症（MG）の治療におけるステロイド内服量と患者満足度
第8回	入倉充	臨床薬剤学分野	小児・新生児医療の現場と課題
第9回	池谷幸信	薬学教育支援センター	伝統医療薬学実習コース概説とコロナ渦の漢方薬
第10回	柴山周乃	薬学教育支援センター	ホスピタリティ論
第11回	柴山周乃	薬学教育支援センター	漢方的診察法・四診
第12回	松原大	免疫薬品学分野	製薬会社時代の製品開発戦略
第13回	平田伸子	母性看護学・助産学領域	女性の健康問題としてえのDV 子ども虐待予防
第14回	古賀砂登美	上町調剤薬局	在宅医療における薬剤師の役割
第15回	有竹浩介	薬品作用学分野	生理活性脂質を標的とした創薬研究 プロスタグランジンD合成酵素阻害薬開発
第	清水健	前宮崎県警科学捜査研究	科学捜査とDNA鑑定

16 回	史 所		
第 17 回	宮原洋	新八代駅前薬局	地域で活躍する薬剤師の医療コミュニケーション
第 18 回	池尻康 孝	福岡市博多区保健福祉セ ンター衛生課	食品衛生に関わる薬剤師の役割
第 19 回	大森眞 樹	きらきら薬局	災害時等の薬剤師の役割
第 20 回	清水典 史	薬学教育推進センター	薬物依存について

授業概要

【開講時期：2021年2月下旬～3月中旬】

授業形式

パワーポイントあるいは板書、および配布補助資料を用い講義形式で行う。
講義の中に一部演習問題を取り入れる。

評価方法

定期試験（100％）で評価する。
講評は、合格発表後に個別に対応する。

オフィスアワー(授業相談)

中原：火曜日 午後1時～4時

学生へのメッセージ

講義前にシラバスを必ず確認し、相当する講義資料の内容を予習しておくこと。

備考

実務実習後のアドバンスト科目として5つの科目

1. 病院薬学実習
2. 薬局薬学実習
3. 伝統医療薬学実習
4. 学内研修
5. 海外医療研修

を開講する。実務実習を終了した学生はこの中から1つの科目を選択する。

科目選択の時期、方法、費用等については別途連絡する。